

平成 14 年 3 月

知的障害者の
職業訓練・指導実践報告()

介護サービス職種編

(知的障害者の可能性を介護福祉の現場に生かすために)

日本障害者雇用促進協会
職業リハビリテーション部

発行に当たって

日本障害者雇用促進協会が運営する国立職業リハビリテーションセンター、国立吉備高原職業リハビリテーションセンター及びせき髄損傷者職業センター（以下、「広域センター」という。）においては、知的障害者の雇用の促進を図る諸施策の一層の充実が求められていることから、平成10年度から試行的に知的障害者を受け入れ、知的障害者に対する効果的な職業リハビリテーションについて検討を行っているところである。

平成12年3月、これまでの試行実施の成果を「知的障害者の職業訓練・指導実践報告書」として四分冊形式でとりまとめ、また、平成13年3月、介護職種における職業評価編を発行した。本書（介護サービス職種編）は、これらの続編として、国立職業リハビリテーションセンターにおける知的障害者に対する介護サービス職種の職業訓練の試行について、当該職種における訓練目標、訓練カリキュラムの考え方、訓練方法等について、ノウハウや普遍的な要素を抽出し、指導のポイントを中心に整理したものである。

本報告が、知的障害者に対する効果的な職業リハビリテーション検討の一助となれば幸いである。

平成14年3月

日本障害者雇用促進協会
職業リハビリテーション部

目 次

	< ページ >
はじめに	1
1 知的障害者訓練について	2
2 訓練目標	4
3 訪問介護員養成研修 開催の手順	6
4 社会資源の活用と地域のネットワークづくり	7
5 訓練内容・カリキュラム・年間計画	8
6 訓練生の状況・資料	13
7 導入訓練の考え方	16
8 訓練課題 (導入訓練課題)	
職業理解のための体験学習(施設見学)	17
職業理解のための体験学習(ビデオ学習)	19
高齢者体験実習	22
基本的作業能力 1 清掃作業	25
" 2 リネン作業	28
" 3 洗濯・乾燥	31
" 4 簡易調理・食器洗い・配膳作業	34
保健衛生	37
安全作業	40
体育指導	43
社会生活指導	49
コミュニケーション能力	56
(訪問介護員3級講習)	60
訪問介護員3級講習講義	
高齢者福祉の制度とサービス	65
障害者(児)福祉の制度とサービス	67
サービス提供の基本的視点	70
ホームヘルプサービス概論	73
サービス利用者の理解	77
介護概論	81
介護技術入門	84
家事援助の方法	94
医学の基礎知識	98
心理面への援助	101
共感的理解と基本的態度の形成	104
ホームヘルプサービスの共通理解	109
(訓練課題) 介護実技演習	113

	コミュニケーション技法	117
	普通救命講習	133
	補完体操	137
	車椅子操作	147
	リネン・おしぼり配布	151
	ベッドメイク	154
	清拭・整容	157
	排泄介助	162
	レクリエーション	165
	修了試験	170
9	施設実習	179
10	施設実習の結果と訓練効果	188
11	試行結果の検証	195
12	試行訓練における今後の課題と改善点	200
13	まとめ	203
14	訪問介護員3級講習 講師並びに協力施設及び関係者一覧	205

はじめに

昨今の著しい産業構造の変化に伴い、障害者全体のみならず知的障害者の就労についても、急激に変化ざるをえない状況にきている。最近の統計でも知的障害者の就労先として依然製造業が全体の役6割を占めている現状の中、障害者雇用についての様々な法の整備が拡大され、特に知的障害者の職域拡大の要望が強く期待されている。また、知的障害者の能力そのものに対する評価も以前の単純作業主体の方向から、今までマイナスに考えられていた障害特性をプラスの方向に生かす試みがさまざまな分野で実施されてきている。

平成9年度、10年度に国立職業リハビリテーションセンターが行った知的障害者の特性に応じた職業能力開発に関する研究により、雇用事例や雇用の将来性を検討した結果、知的障害者の新たな訓練職種として、一般事務関連、商品管理関連、及び介護サービス関連職種を就労の可能性が大きいとして日本障害者雇用促進協会が福岡県にある、せき髄損傷者職業センターにおいて平成10年度より試行的に介護職の職業適応指導を実施してきた。

従来は、知的障害者の職種については、単純反復作業が適している、あるいはそれしかできないと思われていたが、最近では、単純作業の機械化や産業の空洞化による海外流出の影響で仕事を奪われ、今までやっていた仕事すら無くなっていく傾向にある。

そこで、全国的にも新たな職域の拡大に対する取り組みがされている中で、サービス業関連職種への雇用も増加する傾向にある。知的障害者への職業訓練が可能かどうかについてはまだ賛否両論あり確立されていないながら、これからの雇用拡大のためには、知的障害者と言えども就労に見合った専門性を身につけることが必要であり、事前の職業訓練は大きな意味のある支援と思われる。

折りしも平成12年4月から介護保険制度がスタートし、急激に迫りくる高齢社会に対応すべく介護福祉から介護ビジネスへとその必要度は嫌が上にも高まっている。その中で知的障害者の就労の可能性を模索する動きが盛んになってきているが、いまだ本格的な職業訓練を行う機会がなかなか得られない現状があった。

そこで、国立職業リハビリテーションセンターにおいては、せき髄損傷者職業センターにおける結果を受けて、介護職種の試行的訓練をH13年2月から1年間の予定で行ってきている。知的障害者に技能を修得させ就労に至るまでのプロセスにおいて起こる、さまざまな問題点や手ごたえを得てきた事例を通じて、今後介護の分野に就労を希望する障害者およびそれを支援する人たちの指標となるべく取り組んできたが、まさに試行錯誤の段階での報告である。

今後、本格実施として新たな訓練生を迎えて試行で積み上げた結果を分析し、反映していくためにもこの報告書で結果の整理をしていきたい。

この報告から各方面からのご意見をいただいて、よりよいものにし、全国の介護の仕事を目指す知的障害者の一助となるよう努力していきたい。

1 . 知的障害者訓練について

- 知的障害者に技能を身に付けさせることが容易でないのは、多少とも彼らと関わったことのある人なら皆思うことではあるが、果たしてどの程度のことのできて何ができないのか、初めて知的障害者と接する人達にとって判断できない、一番不安を持つ点ではないだろうか。

これまでもさまざまな試みがなされ、彼らの能力を引き出す努力がされてきている中で、少ない事例ながら老人介護の分野で働くことの可能性を探りつつ、訓練の方法・内容について検討してきた。

- 当センターでの訓練対象者は、仕事の性格上知的障害でも比較的軽度の人達になるが、実際に訓練してみると、軽度ゆえの問題点が就労上大きな障害になっていることや、これは他の障害でも同じことが言えるが、障害があることそのものよりも、そこから生じる新たな障害、いわゆる二次的障害のほうがより大きな問題になってくるケースなど、軽度とって侮れない問題が次々と出てきた。

また、知的障害の場合、生活そのものについて今までどのように過ごしてきたか、これからどのように生活していったらよいかと言った社会生活の指導を併せて行う必要がある。

ましてや介護の仕事は生活そのもので、生きていくすべてのことを支援していく仕事である。従って、介護の技能そのものを覚えさせる前に、彼らの生活基盤の底上げを図ることが先決で、遠回りなようでいて実は効率的ではないか、という基本姿勢で訓練を進めてきた。

- 今回の3名の訓練対象者は知的障害としては軽度で、それぞれ一般校で育ってきた人達である。しかも、いずれも専門学校を卒業しており、一見社会生活上はあまり問題なく生活できるレベルという印象があるが、実際訓練してみると知的障害の持つ特性をしっかりと備え、就労上障害となるであろう問題点を多々抱えていることが次々と発覚してきた。

その多くの問題点の根源には生育歴における経験の幅が極端に少ないことに起因しているように思われる。

また、体力面、運動能力面においても、もともと能力が低いばかりではなく、育っていないためにできないと思えるケースが目につく。

- 知的障害者が技能を身に付けるためには時間をかけ、根気強く指導することが必要なことは言うまでもないが、家庭でも学校でも、(特に一般校では)一人の対象者にそれほど時間を割いて指導・教育する余裕もなかなか有ろうはずはなく、結果的に取り残されていった状況があるのではないだろうか。もちろん一般社会の職場においてはそんな悠長なことを言っておれる状況ではない。

そこで、われわれのような訓練施設においてじっくりと時間をかけ、生活基盤を固めた上で就労に必要な技能を身につけさせる必要性があり、またそうした要望も多いのではないだろうか。

そのような観点から、今後必要とされるであろう各訓練施設および講習を企画する上で、配慮すべきこと、問題点をどのように解決していけばよいかなど、参考にさせていただけるマニュアルとして利用していただければと考えている。

2 . 訓 練 目 標

① 老人福祉施設等の介護補助として就労すること

老人介護の仕事先としては、主に在宅介護と施設内での介護に分けられるが、在宅の場合はほとんど個人での対応となる上にさまざまな仕事の形態があり、その能力も高いレベルを要求されるため、今回は施設に限定した就労形態の中で、介護周辺作業も含めた知的障害者のできる仕事は何かを探る。

② 基礎能力（労働習慣確立、基礎技能、社会生活・体力増進）の習得

知的障害者が就労する上での問題は、技能面ももちろんであるが、まずは労働習慣や職業意識、社会生活上に関する一般的な知識、そして体力面も含めた身体能力の向上が大きな鍵を握る。そこでまずは個々の状況を見ながら家庭との連携を取りつつ、徹底的に自身のA・D・L（日常生活動作）のレベルアップを図りながら、技能の習得に結び付けていく。

③ 訪問介護員 3 級の資格習得

老人介護施設で就労する上で必要な職業意識や専門的知識、安全面や衛生に対する意識をもたせるための手段として、訪問介護員の資格取得を目指す。

資格には、介護福祉士、訪問介護員 1 級・2 級・3 級とあるが、その中で訪問介護員 3 級の資格取得を目指すこととした。

その主な理由を 3 つあげると、

- 一つ目は、介護サービスへの意識を高めること、
- 二つ目は、資格取得によって、就職時における社会的認知度を高めること、
- 三つ目は、訓練生本人の自信をもたせることである。

その中で、介護福祉士、訪問介護員 1 級は実務経験を必要とするし、2 級においても身体介護の職務があり、老人の生命の危険に繋がる場合も予想されるため、いきなり 2 級の資格を取得させることは、施設側としても障害者の立場から判断してもお互い無理があると考え、今年度は 3 級の取得を目標に設定した。

④ 講義時間数・カリキュラムの組替え

一般に行われている訪問介護員 3 級の資格取得に向けてのカリキュラムを、そのまま知的障害者に適用した場合、専門知識の理解不足や実技・実習時での臨機応変な作業の難しさがある。つまり、障害の特性を考慮すると、健常者と同じカリキュラムで同じ成果を挙げることはなかなか難しいと思われる。そのため、講義時間数や実習を増やすなどカリキュラムの変更が必要となる。

実際、講義を担当する講師としても、知的障害者の特性を把握するのは難しいし知的障害者が研修の内容をどの程度把握しているのか判断するのは困難である。

しかし、単に資格取得だけが目的ではなく、仕事の内容や責任を理解し、資格を

活かした就労を目指すためには、習得状況を確認しながら効果のある指導を行っていく必要がある。そのため、講義の規定時間の他に十分な時間を取って復習し、少しでも理解度を上げた上で実技・実習に望ませることで習得したことと実際に行う仕事の意味を理解しやすくと考える。

訓練にあたっては以下の点にポイントを置き、カリキュラムや課題の作成の基本的な指針とした。

- 1．老人介護に必要な心構え、配慮事項の習得、
- 2．個々の生活習慣・健康管理の確認及び改善、
- 3．障害の特性に応じた指導方法や配慮点、訓練課題における工夫点の探索。



介護技術
ベッドメイク実習



学科講義風景

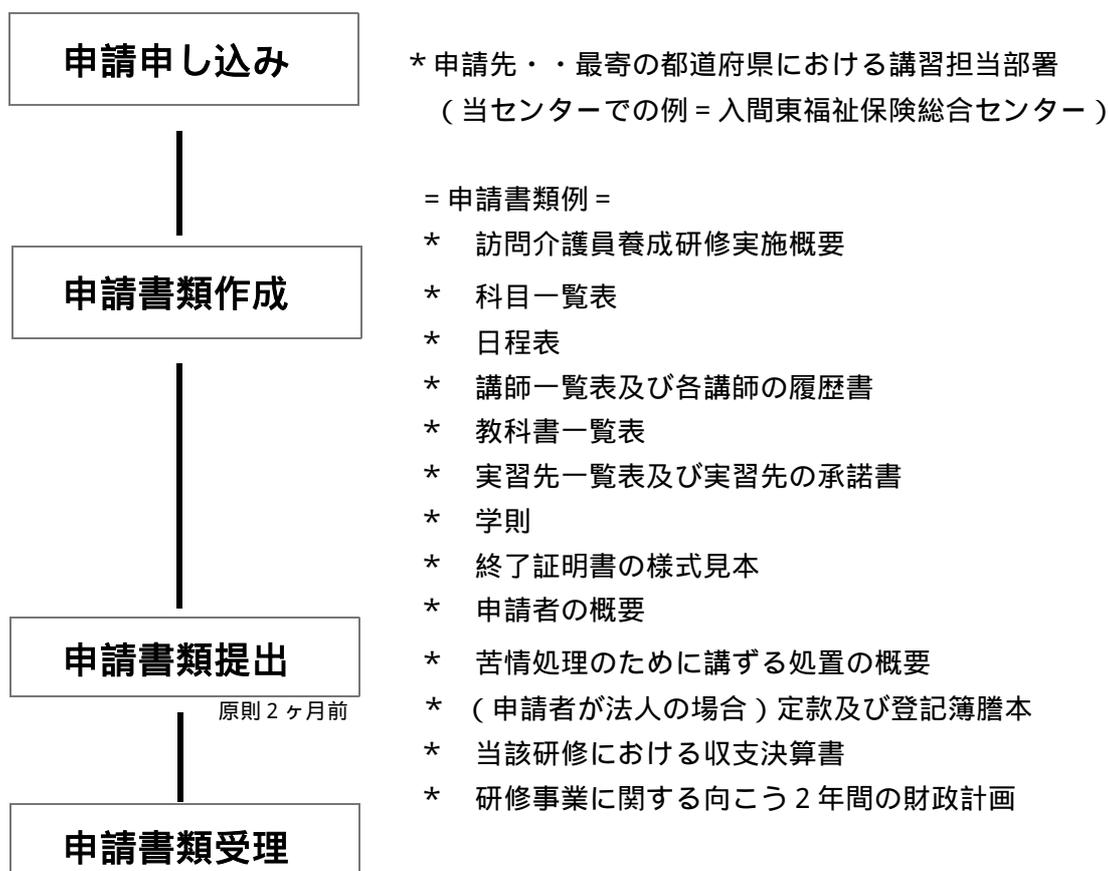
3 . 訪問介護員養成研修 開催の手順

訪問介護員要請研修については、平成12年から高齢者保健福祉施策の5カ年計画（ゴールドプラン21）や介護保険導入の影響から、大幅な訪問介護員増員が計られ、最近の状況では各自治体をはじめ民間企業が多数、訪問介護員養成研修（2級・3級）を行っている。

最近知的障害者を対象として、訪問介護員3級を取得させる取り組みをしている例がいくつか挙がっていたり、専門学校や一般の講習に参加して資格を取得している例も出始めている。しかし、実際問題としていくら資格をとる事ができたとしても、通常規定の講習時間及び実習時間では、個々の障害の度合いによって違いはあるものの、就労するにあたって受け入れる老人介護施設等にしても、障害者自身にとっても不安な要素はかなり多いものと思われる。そこで知的障害者の障害特性を十分配慮しつつ、より効果的に介護に必要な知識・技能を修得させ、出来る限り多くの時間をかけて専門訓練を施し、安心して資格に見合う仕事が出来るとような訓練を、と考え実施してきた。

そこで当センターを認定校として実施する為の手続きを以下のように進めてきた。

■ 訪問介護員養成研修（3級）のための認定校申請に関する手続き



4 . 社会資源の活用と地域のネットワークづくり

■ 最近では各自治体をはじめ民間企業が多数、訪問介護員養成研修（2級・3級）を行っている為に、講師や実習先の確保がかなり厳しい状況にある。

また、実習先の確保についても、福祉系大学、専門学校等の増加や教員免許取得課程での「介護等の体験」の義務化、小・中学校生徒の指導要綱改定に新たに加えられたボランティア活動の場として、老人介護施設は実習生の受け入れにかなりの負担を強いられてきている。実際そうした実習生の受け入れには、職員の負担や事故等への懸念から受け入れに消極的な施設も少なくない。

加えて知的障害者の訓練ということで、講師及び実習施設の戸惑いや拒否反応があると予想される。

講習開催にあたっては、規定の科目に対し、時間数及び担当講師の資格条項が定まっており、自前の講師のみで開催することはなかなか難しい。そこで講習を開催するにあたっては、それぞれの地域における社会資源、人材の発掘と協力体制を築いていくことが、講習の成否を左右する大きなポイントとなってくる。

その為にまず、知的障害に対する不安を解消する必要がある。

例えば知的障害者の特性理解のレクチャーや訓練の状況を実際に見る機会をつくる、あるいは実習にはサポート要員を必要に応じてつけるなど、主催者側が十分なサポートをする体制があることを、よく印象付けた上で実施していくことが大切である。そうした点を一つ一つ積み重ねながら、地域におけるネットワークを構築し、問題点が発生したときにも協力して対応できるよう心がけていくとよいのではないだろうか。

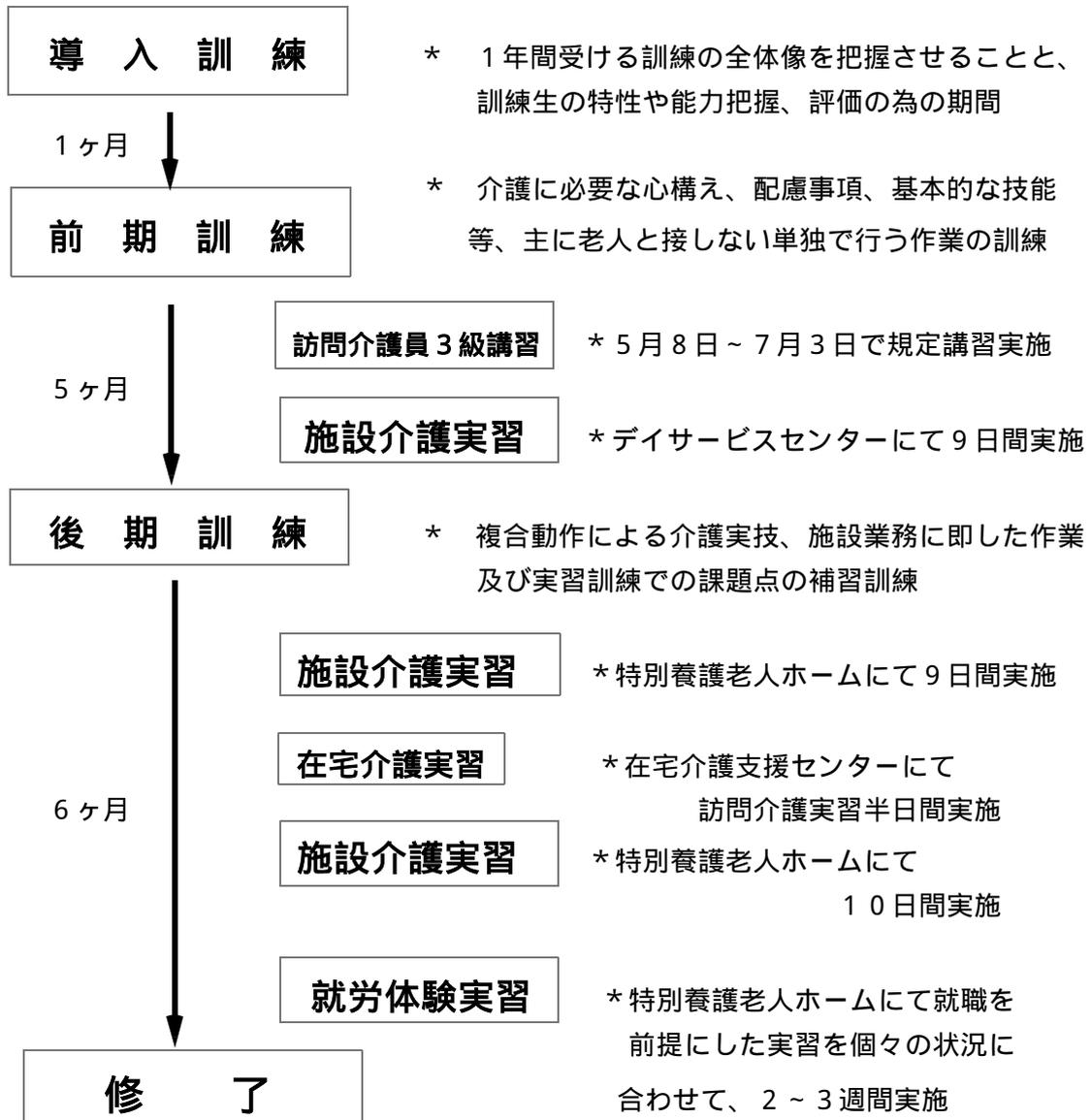
当センターの例としては、市役所や社会福祉協議会、老人福祉施設連合会等に対し、今回の知的障害者試行訓練の趣旨等を説明し協力の依頼にまわり、講師陣に関しては何とかそろえることができた。

実習施設に関しては、社会福祉協議会を通じ、市内の老人施設の理事会が開催される会場に赴き、趣旨説明と協力をお願いをしたところ、主催理事長の後押しもあり何とか3施設の協力を得ることが出来た。

講師依頼のお願いに回る中で、知的障害者に対しての指導、あるいは実習の受け入れに対して、いずれも初めてのケースで不安を抱えていると思われる意見が多かった為、今回の試行訓練に関わっていただく方々を一同に集めた連絡会議を設定することとした。

連絡会議の趣旨は、初めて知的障害と接する方のために、知的障害の大まかな特徴と対応法、訓練状況を見学していただき、個々の様子を直に見てもらうこと、及び日程の調整であった。結果的には講義を進める上で非常に効果的であった。

5 . 訓練内容・カリキュラム・年間計画



入所式



<表1>

介護サービス分野の訓練内容計画書(案)

計画原案(例)

介護サービスコースの訓練カリキュラム(案)										
番号	科目	内容	日	小計	番号	科目	内容	日	小計	
① 介護 理論	G1 社会福祉に関する知識	G1-1 福祉サービス提供の基本視点	4		② 基礎 実習	J1 福祉サービス提供の基礎知識		8		
		G1-2 老人保健福祉の制度とサービス	2			J2 サービス提供現場見学 ③置		16		
		G1-3 障害者(児)福祉の制度とサービス	2			J3 体系的現場実習 ④通×⑤		280	418	
	G2 ホームヘルプサービスに関する知識と方法	G2-1 ホームヘルプサービス概論	4		③ 実 習	e1 モーター操作	英数字の打鍵			
		G2-2 サービス利用者の理解	4				訓・記号等の打鍵			
		G2-3 介護概論(介護の基本原則、在宅介護の特質の把握)	4				文書入力			
		G2-4 家事援助の方法(洗濯、調理、掃除、洗濯機管理等に関する知識)	4				表計算入力			
	G3 介護現場の基礎知識	G3-1 国字の基礎知識(漢字、かな、ローマ字の読み書き、漢字の読みかき)	4		e2 文書実務	文章判読				
		G3-2 介護現場への視察方法(視察、研修等に関する知識)	2	30		文章作成				
	② 介護 技術 訓練	E1 実務的知識と基本技術の修得の修得	ホームヘルプ等によるサービス提供現場の修得	4		e3 計算実務	四則計算			
E2 介護技術入門		介護に必要な技術について一通り体験し、各種の法律を知る。	12				単位の計算			
E3 ホームヘルプサービスの共通知識		ホームヘルプサービスにおける共通知識と実務に関する基礎知識	4	20			電卓計算		140	
③ 介護 技能 訓練	K1 コミュニケーション技術	福祉サービス提供者の基本的態度に関する演習			④ 社会 生活 指導	S1 食事に関すること				
		高齢者に対する会話の方法		60		S2 清潔に関すること				
	K2 介護技術基礎1(老人と接しない作業)	ペットメイク		22			S3 身の回りの整理に関すること			
		食事介助 (配膳、後片づけ)		22			S4 掃除の管理に関すること			
		洗濯 (洗濯・ベッタ拭き)		22			S5 安全・危険の管理			
		洗濯・乾機・乾燥		22			S6 虫類の管理			
		リネン整理 (おしぼり・タオルおむつ・衣類等の整理)		22			S7 公共施設の利用			
		洗濯・整理 (入れ替、畳ブラ、洗濯)		22		132	S8 公共交通機関の利用			
	K3 介護技術基礎2(車椅子作業)	歩行介助 (車椅子搬送)					S9 歩行補助の充実			
		歩行介助 (車椅子搬送)		22			S10 職場の基本ルール			
歩行介助 (車椅子搬送)			22		S11 適切な作業態度・行動					
歩行介助 (車椅子搬送)			22		S12 福祉サービスへの対応					
K4	歩行介助 (車椅子搬送)		22		S13 移動に関する知識					
	歩行介助 (車椅子搬送)		22		S14 職業生活に関する知識					
	歩行介助 (車椅子搬送)		22	88	S15 健康(お薬など)					
	歩行介助 (車椅子搬送)		22	88	S16 テレワーク活用			80		
K5 介護技術応用(複合動作)	履穿介助		22		⑤ 特 別 訓 練 活 動	T1 技能確認試験		4		
	ペットメイク実習 (洗剤、量取設定、スプレー)		22			M1 文化祭				
	歩行介助実習 (歩行補助)		22			M2 修習祭				
	食事介助 (食事補助)		22							
	入浴介助実習 (洗剤、量取設定、スプレー)		22							
	履穿介助 (履穿・おむつ交換)		22							
	履穿・整理実習実習		22	154						
④ 実 習	A1 安全訓練	消防訓練			⑥ 特 別 訓 練 活 動	U1 種元体験				
		防災訓練					U2 保育		140	
訓練総時間									1,400	

< 表 2 >

介護サービス分野年間計画(例)

介護サービス分野「年間計画」(例)										
導入訓練		前期訓練		後期訓練						
導入訓練 個人・適正態度	H	H25H30	実施基礎	H	H25H30	実務応用	H	H25H30		
実習	職内容理解のための体験実習(施設見学)	8	JT標準実習1	講義	社会福祉に関する知識	8	01	介護概論 (施設概観訓練)	10	02
					ホームヘルプサービスに関する知識と方法	6	02			
					関連施設の基本知識	6	03			
	職内容理解のための体験実習(ビデオ実習)	6	E2介護技術入門	実技	介護技術入門	180	E2	介護技能基礎2 (単独作業) - 歩行介助・車椅子搬送 - 身体清潔整容・入浴介護	208	K3
			E1共通の理解1		老人と接しない作業		H20介護技能基礎1	介護技能応用 (複合動作) - 介護技術実践(施設介護模擬実習)		K5
	老人体験実習(日常行動・障害体験)	8	G2サービス利用者の理解 K1コミュニケーション技法		単独作業		H30介護技能基礎2			K6
					レクリエーション補助		K4	レクリエーション補助		K4
					コミュニケーション技法		K1	コミュニケーション技法		K1
	社会生活指導訓練	18	S10職場の標準ルール S11適応的行動観察・評価	実習	共通の理解と基本的態度の形成 S→A47サービスの共通理解	8	E1 E3	技能確認試験(3級資格取得試験) 介護技能補完訓練	4 10	T1 K5
				講義						
	安全衛生(清潔な作業と整理)	8	S1介護サービスの基本知識 G2感染の予防対策	実習	社会生活指導	42	S	- 社会生活指導	82	S1～S16
					老人介護施設実習(見学1日含む)	204	M2	- 職場実習(見学1日含む)	204	J2～J3
	安全衛生(安全作業と介護)	10	A1安全訓練 G2A→L→J79→K10標準実習		文書実務訓練	70	E1～E3	- 文書実務訓練	70	E1～E3
								- 特別研修活動	50	M1～2
	コミュニケーション技法	12	K1コミュニケーション技法					- 安全衛生(救急発生講習を含む)	22	A2救急訓練
								- 体育指導	124	M3～5
実技	清掃作業(居室・トイレ洗面所)	14	K2介護技能基礎1							
	リネン作業(おしぼり・タオル・シーツ・衣類等)	14	H20介護技能基礎1			524			736	
	洗濯・乾燥	14	H20介護技能基礎1					統計	1400	
	簡易調理・食器洗い・配膳作業	14	H20介護技能基礎1							
	体育指導	18	JT標準実習 J26体育							
		140								

* <表1>については、介護サービス訓練において必要な要素を小項目ごとに分けて、所謂レストランのメニュー的なものとして計画段階で作成した。

* <表2>については導入訓練の考え方から今回の試行の実状に合わせて組替えたもので、この計画に基づいてほぼ実施してきた。

* <表3>については、職業能力開発法に準じたモジュール訓練による標準カリキュラムとして訓練名称等を改定したものである。

<表 3 >

標準カリキュラム

施設名 中央障害者職業能力開発校

訓練系		職域開発系		科名		介護サービス実務訓練分野		
番号	教科	規定時間	訓練の対象となる技能及びこれに関する知識	時間数	モジュール記号	モジュール番号	モジュール名	備考
1	基礎学科		小計	50				
			社会福祉に関する知識	4	K	100	福祉サービス提供の基本視点	
				2	K	101	老人保健福祉の制度とサービス	
				2	K	102	障害者(児)福祉の制度とサービス	
			ホームヘルプサービスに関する知識と方法	4	K	110	ホームヘルプサービス概論	
				4	K	111	サービス利用者の理解	
				4	K	112	介護概論1(介護の基本原則)	
				4	K	113	介護概論2(家事援助の方法)	
			関連領域の基礎知識	4	K	120	医学の基礎知識	
				2	K	121	心理面への援助方法	
			共感的理解と基本的態度の形成	4	K	130	サービス提供現場の演習	
			介護技術入門	12	K	140	介護技能演習	
			ホームヘルプサービスの共通理解	4	K	150	援助方法と実際に関する共通理解	
2	基礎実技		小計	314				
	基礎実技1		ベッドメイク1	22	K	200	ベッドメイキングの基礎	
			食事介助1	22	K	210	食事への援助	
			清掃	22	K	220	清掃の仕方	
			洗濯	22	K	230	洗濯の仕方	
			リネン	22	K	240	リネン等の取り扱い	
			整容介助1	22	K	250	歯磨き・洗顔・ドライヤー	
	基礎実技2		移動介助	11	K	300	車椅子操作	
				11	K	310	歩行介助	
			体位・姿勢変換	22	K	320	寝床上等での体位・姿勢交換	
			衣類着脱介助	6	K	330	衣服整理・準備	
				8	K	340	衣服着脱	
			入浴介助1	8	K	350	入浴援助の基礎	
			清拭・整容介助1	11	K	360	身体清拭	
				11	K	370	洗髪・乾燥・口腔ケア	
	基礎実技3		コミュニケーション技法	30	K	400	サービス提供者の基本的態度	
				30	K	410	高齢者との会話法	
				34	K	420	レクリエーション	
3	専攻実技		小計	154				
			トランスファー	22	K	500	トランスファー総合演習	
			ベッドメイク2	22	K	510	ベッドメイキング総合演習	
			移動介助2	22	K	520	移動介助演習	
			食事介助2	11	K	530	調理演習	
				11	K	540	食事摂取演習	
			入浴介助2	22	K	550	入浴介助総合演習	
			排泄・尿失禁介助	11	K	560	トイレ等での排泄介助	
				11	K	570	おむつ交換・汚物処理	
			清拭・整容介助2	22	K	580	清拭・整容介助総合演習	

4	職場実習	小計	280				
		ビデオ学習	8	K	600	サービス提供現場の理解	
		サービス提供現場見学	16	K	610	施設・在宅見学	
		体験的職場実習1	216	G	100	施設実習	
		体験的職場実習2	40	G	110	在宅介護実習	
5	社会生活指導	小計	90				
		社会生活面の指導	8	S	10	安全・健康管理に関すること	
			5	S	15	交際・役割に関すること	
			8	S	20	基本的なルール・マナーに関すること	
			8	S	25	金銭管理に関すること	
			8	S	30	社会のしくみについて	
			8	S	35	公共施設の利用に関すること	
			5	S	40	余暇活動	
		労働習慣等の指導	8	S	45	職業意識・職業態度	
			8	S	50	職場の基本的ルール	
			8	S	55	作業態度(仕事への取り組み姿勢)	
			8	S	60	対人態度・職場でのコミュニケーション	
			8	S	65	仕事場での問題の対処	
6	応用実技	小計	260				
		補完体育	60	K	700	腰痛等の予防	
		救急救命基礎	24	K	710	救急救命講習	
		造形実習	80	K	720	絵画・彫塑・書道	
		情操活動	36	K	730	園芸・音楽	
		IT基礎訓練補講	60	K	740	パソコン操作・事務文書作成	
7	共通科目	小計	252				
		IT基礎訓練	80				
		特別訓練活動	86				
		体育	80				
		修了試験	6				



朝の訓練風景

所内設備を使った訓練



6 . 訓練生の状況・資料

平成13年試行訓練対象者 2月13日 ~ 平成14年2月13日 男性1名
3月21日 ~ 平成14年3月20日 女性2名

知的障害者試行訓練 介護サービス訓練分野訓練生の状況

平成14年2月15日現在

NO	年度	対象者	障害程度	住所	課題	履歴	就職先	備考
1	13(試)	F・Y (男・27歳)	4度	東京都 杉並区 荻窪	会話はあるが知識・興味の幅が狭い。自意識が強く他人の目を常に意識する。身体のコントロールがかなり悪い。感情をすぐに表情に出す為、人間関係の持続が悪い。多数転職を繰り返す。指の巧緻性非常に悪い。絶対にへこたれない負けず嫌いなバイタリティはある。記憶の蓄積が出来ない。視野が極度に狭い。集中力の持続がない	普通中学卒 専門学校 高校課程卒 経理専門学校卒 1年以内で 数件の職場を 転職(店員)	東京都S市 K園 (特別養護 老人ホーム) パート	てんかん 服薬 期間中発作 無し
2	13(試)	H・M (女・22歳)	4度	東京都 府中市	国語力、計算力が弱い。言葉に表現することが苦手だが行動は早く、先を見通した作業が出来る。視覚的に記憶し、トレースする能力はある。若干甘えん坊だが、明るく笑顔で接することができる。指先が器用で、工作手芸が得意。やや飽きっぽいので持続力は弱い。トイレ掃除等も嫌がらず楽しみながらしている。	普通中学卒 製菓専門学校卒 職歴無し	埼玉県T市 K園 (特別養護 老人ホーム) パート	
3	13(試)	S・M (女・28歳)	4度	東京都 立川市	おとなしく素直。記憶、知識の蓄積は良い。動作性はスローで比較的器用であるが、丁寧に、確実にこなしていく。忍耐力もある。応用はないがまじめにコツコツ取り組むタイプ。とっさに事態に対する応用は無い。一度にいろいろな事を要求すると、ややパニック状態になるので落ち着いた状況でやらせると笑顔で、気を利かせる行動もとれる。	普通中学卒 工芸専修校卒 2年間父親の 仕事場で手伝 う	東京都F市 I 苑 (特別養護 老人ホーム) パート	



介護サービス試行訓練 年間計画表(案)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
1			設立記念日											
2														
3									後期訓練開始					
4														技能確認試験
5											職場実習			
6														
7									施設見学					
8		評価												
9														
10														
11						施設実習								
12			前期訓練開始											修了式
13		入所式												
14		導入訓練開始										職場実習		
15														
16		施設見学												
17												訓練休		
18														
19		老人体験実習	施設見学				施設実習							
20														
21														
22														
23														
24														
25														
26			訓練休											
27										並木祭				
28										並木祭				
29										代休				
30							訓練休			代休				
31														

介護サービス試行訓練 年間計画表

1月30日

	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1		設立記念日		G・W訓練休					T特講師						1
2						T・S講師									2
3						S講師									3
4															4
5															5
6															6
7															7
8	評価			H講師						O特講師					8
9						施設実習				救急救命講習					9
10				K講師		Y園3名		T特講師			T特講師				10
11				M講師	Y・I講師				O特講師						11
12		前期訓練開始			Y・I・M講師									修了式2	12
13	入所式1	1			Y・I講師				並木祭		I実 苑習				13
14	導入訓練開始			O講師	O特講師										14
15				Y・I講師					代休						15
16	施設見学			S講師						T特講師					16
17				S講師				施設実習			冬季訓練休				17
18					T特講師			K園2名							18
19	老人体験実習					施設実習		Y園1名		施設実習					19
20										K園3名					20
21		入所式2													21
22				T・Y・I講師	体育祭									技能確認試験1	22
23			前期訓練開始												23
24			2			救命講習									24
25						O特講師								実	25
26		春期訓練休			K講師					施設実習					26
27					S特講師										27
28				H講師	S特講師			施設実習						修了式1	28
29								S特講師						模擬レク	29
30						夏期訓練休		S特講師						習	30
31															31

7. 導入訓練の考え方

本来の導入訓練の考え方としては、職業能力開発法に基づく「導入訓練をとまなう普通課程の職業訓練」の試行として、「導入訓練」と「訓練分野の訓練（特別コース訓練）」の2期に分けて行うもので、複数の訓練コースが存在する場合、その中から一番よいと思われるものを選択するために行われる考え方である。

しかし今回の試行においては、介護サービスに限定した入所形態を取った為に、上記の役割としてではなく、まず「導入訓練」で対象者の障害特性の把握を行い、特別コースへの円滑な移行を図ることを目的とした。さらに訓練生にとっては、これから受ける訓練の全体像を把握させるためと、介護に対する職業意識を明確にするものとして位置付けた。

■ 導入訓練 課題内容

最初に行うべきことは介護現場、仕事の内容のイメージを具体化させる事である。入所前に、介護の現場における経験の有無を確認し、どの程度の知識と経験を持っているかを把握する。

導入訓練基本課題

期間 < 4週間 >

NO	課題名	時間数	課題内容詳細
1	職業内容理解のための体験学習 (施設見学)	8	介護と言う職業についての理解をし、具体的にこれから行う仕事のイメージを確かなものにするための訓練。 実際に老人ホーム等の施設を見学し、職場となる施設の雰囲気や、仕事の内容を見学し、介護という職業の具体的な内容を理解し、訓練を進めるに当たっての目標設定を持たせる。
2	職業内容理解のための体験学習 (ビデオ学習)	6	具体的な訓練内容について教材ビデオを見て、個々の作業内容を予め予測できるように情報を与える。
3	老人体験実習(日常行動・障害体験)	8	おもり入りの衣服や器具を使って、身体の各部に障害を持たせた状態にし、老人が持つ不自由さを体験させ、老人に対する理解や思いやりを深めさせる。
4	基本的作業能力 1 清掃作業(居室・床・トイレ・洗面所)	14	掃除機・箒・モップ等の使い方。掃除の手順を体験させ、その動作性を見る。
5	基本的作業能力 2 リネン作業	14	おしぼり・タオル・シーツ・衣類等のたたみ方を繰り返し行うことで、持久力や手先の巧緻性、性格等を見る。
6	基本的作業能力 3 洗濯・乾燥	14	リネン物品の洗濯・乾燥作業。洗濯機や乾燥機の取り扱い方を通して理解度や適応性を見る。
7	基本的作業能力 4 簡易調理・食器洗い・配膳作業	14	電子レンジなどを用いて簡易な食事を作り、老人食の体験、および食器の洗浄、整理・配膳等の作業を等して応用性や自主性を見る。 作業分担を行う中で、協調性や責任感も見る。
8	保健衛生(清潔な作業と整理・身だしなみ)	8	介護を行う上で大切な衛生面に関する配慮や心構え、注意事項、身だしなみに対する意識の有無を見る。
9	安全作業と介護	10	一般的な仕事上の安全の確保に関する意識の向上に加え、介護を行う上で必要な老人に対する配慮や自分自身の健康管理等、生命を扱う職業としての自覚を持たせる。
10	体育指導	16	毎日の訓練の中でリズム体操等を組み入れ、身体の動きや運動能力を見る。また週一回程度体育の時間を設定し、基礎体力や運動能力の伸びや限界を見る。
11	社会生活指導訓練	16	朝礼やホームルームの時間に挨拶等基本的な社会性の能力を見る。また、所外実習の計画・実行・反省を通して行動観察を行い、社会生活上の問題点を抽出し、補充していく。
12	コミュニケーション能力	12	日常の訓練中、朝礼やホームルームの時間において自身を表現するなど基本能力や、報告・記録等がどの程度出来るのかを見極める。また、レクリエーションの行い方を修得する中で、老人との接し方、言葉使い、チームワーク能力等を見る。(デイサービス・老人クラブ等で実習)

140

8 . 訓練課題（導入訓練課題）

職業理解のための体験学習（施設実習・見学）

介護サービスを希望する以上、すでに養護学校の職場実習などで経験している者や、実際に働いていた経験のある者など多少ばらつきがあると思われるが、それぞれの経験がどの程度か、またその仕事に対する認識度がどの程度かを確認しておく必要がある。

その上で改めて施設見学、半日程度の実習体験を行い、これから進もうとする仕事の内容や職場環境等について、1年間勉強していくための動機付けをしっかりとっていくことが必要である。

その意味で、導入期間中のなるべく早い時期に、デイサービスセンターでの半日～1日程度の実習を設定し、指導員も同行した上で、実習中の行動観察を行う。

* 特別養護老人ホームにおけるデイサービスセンターでの体験を設定し、主に老人とのコミュニケーション、レクリエーション活動に参加するなど、比較的危険性が少なく、楽しみながら入れる内容の実習を行う。

その中で、老人とどのように接しているか、環境へのなじみ方はどうかなど、訓練生の性格や適性などを観察する。

導入訓練 1

介護体験 シート1

実習確認表

平成 年 月 日(

施設名	介護老人福祉施設	施設長名	
施設の種類の	介護老人福祉施設		
所在地		TEL	

実習予定項目	時間	実習項目	担当者
	9:00	研修及び施設の概要説明 施設内見学	
	9:30	当日の状況と仕事の流れ役割分担の説明 デイサービス利用者 送迎(出迎え)全体の把握 湯茶・おしぼりサービス コミュニケーション レクリエーション	
	12:00	配膳・食事介助	

同行指導員名

確認項目	自己評価	指導員評価
安全	常に利用者に対する安全を配慮できたでしょうか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
規則・約束	時間や注意されたことが守られましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
身支度	実習にふさわしい服装や持ち物の準備はできましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
実習態度	実習中はまじめに集中して学ぶことができましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
言葉遣い	利用者や職員に対する言葉遣いはきちんとできましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
理解度	施設長や職員の説明は良く理解できましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
	利用者の名前を覚える事ができましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
接遇態度	利用者とのコミュニケーションはいかがでしたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
	湯茶やおしぼりを配る時に声掛けはうまくできましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
	配膳や食事介護はどのくらいできましたか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —
	今回の実習全体を見て自分でどれくらいの評価ができますか？ * 良くできた * できた * 一部できた * できなかった	優 良 普通 要復習 — — — —

様式1

訓練課題シート

導入訓練

1

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	J2 職場実習	課題名	職業内容理解のための体験学習
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容</p> <p>[] において1日間、体験実習を行います。 実習を受けながら次の点を良く考えて観察してきて下さい。 介護サービスとはどんな仕事なのか。 老人施設ではどんな仕事をするのか お年寄りが施設でどのような事をして過ごしているか 施設の職員がどんな風にお年寄りのお世話をしているのか。 どんな風に、あるいはどんなお話しをしているか。</p>			
<p>訓練目標</p> <p>挨拶と返事は、元気良く明るくしましょう。 職員の指示を良く聞いて行動しましょう。 職員の名前とお年寄りの名前を良く覚え、声かけしましょう。 お年寄りとたくさんコミュニケーションが取れるようにしましょう。</p>			
<p>準備するもの</p> <p>実習用ユニフォーム エプロン (名前を縫いつける) 室内用運動靴(新しくなくてもきれいに洗ったものであれば良い) 筆記用具 (ノート・鉛筆又はボールペンなど)</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 1
職業内容理解のための体験学習
 (施設見学)

課題別評価シート 1

年 月 日

確認項目	評価内容	指導員評価			
安全	利用者に対する安全を配慮しながら行動ができたか。	優	良	普通	要復習
規則・約束	出勤時間や業務の予定を意識できているか・守られたか。	優	良	普通	要復習
身支度	実習にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
実習態度	実習中はまじめに集中して学ぶことができていたか。	優	良	普通	要復習
挨拶	利用者や施設の職員に挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	利用者や職員に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
理解度	施設長や職員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
	利用者や職員の名前を覚えることができたか。	優	良	普通	要復習
接遇態度	利用者とのコミュニケーションを積極的に取っていたか。	優	良	普通	要復習
	湯茶やおしぼりを配る際など利用者に声掛けは良くできていたか。	優	良	普通	要復習
	配膳の際、名札を間違えず、スムーズに運ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	食事介助が適切に行えたか。	優	良	普通	要復習
	施設内の物品の取り扱い・整理は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
総合評価	今回の実習全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習

備考

職業理解のための体験学習（ビデオ学習）

老人介護や施設での様子、福祉に関係する内容のビデオを見せて、その感想文を書かせたり、話し合いあるいはフリートークの時間を設定し、その中から観察力や職業観などを引き出し把握する。

ビデオソフトとしてはかなり専門的な介護技法の解説に関するものから、ドラマに至るまで様々なものがあるが、導入としては、30～40分程度の割合くだけたドラマ仕立ての方が興味を持たせられる。

あまり長かったり、専門的になりすぎると内容を覚えきれないとか、集中力をなくしてしまうなどの弊害も出てくることが考えられる。

レポートや話し合いにおいては、これから進もうとする仕事の内容がどんなものかを出るだけ意識させる方向に誘導するような指導を心掛けると良い。

様式1

訓練課題シート

導入訓練

2

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	G1福祉サービス提供の基本視点	課題名	職業内容理解のための体験学習(ビデオ)
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容 ビデオタイトル 「 」を観て、介護サービスとはどんな仕事なのか、 どんな心構えで行えばよいのか考えてみましょう。</p> <p>考察 ビデオを観て、解ったことを記入して下さい。 福祉とか介護とは何でしょう？一緒に考えてみましょう。</p> <p>お年寄りの特徴・特性(身体・性格)にはどんなことが考えられますか？身近な老人、ビデオを思い出して考えましょう。 お年寄りの介護にはどんな仕事の内容があるのでしょうか？</p> <p>介護をするときの心構えにはどんなことが考えられますか？</p> <p>お年寄りのお世話をするとき、どんなことに気をつけますか？</p>			
<p>感想・話し合い ビデオを観て、思ったことをお互いに発表し、気づいたことについて話し合います。 話し合いを通じて介護の仕事を良く理解できるようにしましょう。</p>			
<p>訓練後の感想 話し合った内容について思い出しながらまとめて下さい。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 2
職業内容理解のための体験学習
 (ビデオ学習)

課題別評価シート 2

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優 良 普通 要復習
身 支 度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優 良 普通 要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優 良 普通 要復習
	ビデオ学習の最中に居眠りはしなかったか	優 良 普通 要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優 良 普通 要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優 良 普通 要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優 良 普通 要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優 良 普通 要検討
	ビデオの内容を理解し自分なりの感想が表現できたか。	優 良 普通 要復習
	ビデオで見た内容や話し合った事をまとめることができるか	優 良 普通 要復習
コミュニケーション	話し合いに積極的に参加していたか。	優 良 普通 要復習
	相手の話を良く聞くことができているか。	優 良 普通 要復習
記 録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか	優 良 普通 要復習
機器操作	ビデオ装置の操作はできるか。	優 良 普通 要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優 良 普通 要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優 良 普通 要復習
-------------	---------------------------------	-------------------------

備 考	
-----	--

高齢者体験実習

「サービス利用者の理解」の講義項目に相当する内容で、言葉で「お年寄りの気持ちになって!」と言っても、他者の立場を理解、あるいは想像することは、特に知的障害者にとってはなかなか難しい事柄である。そこで、まずは身体的な面での老化について身体で実感させる課題を設定する。市販の高齢者体験セットがあればよいが、無い場合は、福祉機器展示センターなどからの貸借や簡単なもので、手作りして間に合わせることも可能である。この体験を通して、十分ではないにしても普段何気なくしている動作が、老化や障害によって制約されて思うように行かないことや、**介助される側にとってどのような介助が安心できるかなど**の点を理解できるように指導することがポイントとなる。

- * 脳梗塞による片麻痺を想定して、半身の関節を固定し、錘をつけて動きを制限する。
 - * 視力低下・白内障を想定して、アイマスクやゴーグルを使って歩行させる。
 - * 聴力低下を想定して、耳栓やヘッドホンで耳をふさいで行動させる。
- 個々の体力や体格に合わせて錘の重さやサポータのつけ方など、本人に確認しながら適度に負荷を感じる程度に調節する。

高齢者体験装具セット



左半身麻痺想定で装着



装着したままで車椅子操作



様式1

訓練課題シート

導入訓練

3

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	G2サービス利用者の理解	課題名	高齢者体験実習(日常行動・障害体験)1
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容</p> <p>疑似体験用の衣服や器具を身につけて、お年寄りや障害者の気持ちを理解する訓練です。歳を取ったり障害を持つことで、日常生活の面でどのような不自由さがあるのか、どんなお手伝いをして欲しいと思うのか。介護を受ける立場から考えてみましょう。</p> <p style="padding-left: 40px;">福祉用具の種類や名称、扱い方を学びましょう。</p> <p style="padding-left: 40px;">介助者とお年寄りの役に分かれてセンター内を移動してみます。</p>			
<p>訓練目標</p> <p>福祉用具の種類・名称【構造】・正しい扱い方を学びましょう。</p> <p style="padding-left: 40px;">車椅子、杖、歩行器 たたみ方、広げ方、ブレーキなど</p> <p style="padding-left: 40px;">車椅子の操作を覚えましょう。【本人が乗って操作、介助の仕方】</p> <p style="padding-left: 40px;">タイヤの空気・ブレーキをチェック。</p> <p style="padding-left: 40px;">でこぼこ道、坂道、段差、エレベーター、溝をお年寄り役、介助者としてそれぞれ体験しましょう。</p> <p style="padding-left: 40px;">実際に介助しながら声かけをしてみましょう。</p> <p style="padding-left: 40px;">センター内では障害者のためにどのような配慮がなされているでしょうか? 【エレベータ(延長ボタン)スロープなど】</p> <p style="padding-left: 40px;">体験を通じての感想、介助をしての気付き・感想を話し合ひましょう。</p>			
<p>準備するもの</p> <p style="padding-left: 40px;">高齢者疑似体験セット</p> <p style="padding-left: 40px;">車椅子</p> <p style="padding-left: 40px;">歩行器</p> <p style="padding-left: 40px;">杖</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 3
老人体験実習
(日常行動・障害体験)

課題別評価シート 3

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身支度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
	機器の名称や各部の名称を覚えることができたか。	優	良	普通	要復習
コミュニケーション	介助者の立場での会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)の立場になったと想定した会話はできていたか。	優	良	普通	要復習
	体験の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来るか。	優	良	普通	要復習
	相手の話を良く聞くことが出来るか。	優	良	普通	要復習
記録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか	優	良	普通	要復習
機器操作	車椅子・歩行器・杖の操作は出来るか。	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	----------	----------	-----------	------------

備 考	
-----	--

基本的作業能力 1

清掃作業（居室・廊下・トイレ・洗面所など）

主に特別養護老人ホームを想定した清掃作業の方法について指導する。
まずは清掃することの意味をしっかりと認識させる必要がある。各家庭における清掃と、介護者としての清掃の相違点、注意することなどを特に重点的に指導する。

清掃作業自体は割合高度な判断力を必要とし、知的障害者にとっての最初の課題としてはやや難易度の高い内容ではあるが、作業状況や説明の理解度を観察することで、訓練を進めるにあたり介護に必要な大まかな能力を測ることが出来る。

「指導項目」

- * 清掃用具の種類と扱い方。
- * 清掃手順（準備から後片付けまで）
- * 配慮事項

清掃作業の中から、用具の扱い方、作業手順を観察することで器用さや身体の動作性を、また床の掃く手順から、空間認識力、作業と作業の合間でいかにスムーズに出来るかによって、判断力や理解力・応用力なども見る事が出来る。



通常の清掃と老人施設における清掃の相違点について、理由を理解させながら説明していくことで、介護者としての心構えや配慮事項を覚えさせる。

- 1．換気と室温の確認
- 2．声かけ
- 3．埃をたてない・音をたてない
- 4．清掃手順への配慮
- 5．身支度・衛生面への配慮



箒での掃き残しを視覚的に意識させるため、床におがくずや米ぬかなどを撒いて掃かせることで、掃いた跡を確認しながら部屋を掃く手順を覚え、掃き残しの有無を自覚させる。



様式1

訓練課題シート

導入訓練

4

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	K2 介護技能基礎1	課題名	清掃作業(居室・床・トイレ・洗面所)
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容</p> <p>施設における清掃の手順と掃除機などの用具の扱い方、片付け方など基本的な作業方法について実習します。 清掃を行う際の服装や用具の準備について。 清掃を行う手順の確認 居室における清掃の手順と注意が必要な点 トイレ・洗面所・浴室等における清掃の手順と注意点</p>			
<p>訓練目標</p> <p>清掃を行う意味を考えてみましょう。 センター内を実際に清掃しながら、清掃用具の正しい扱い方、片付け方などを覚えましょう。 効率的な清掃の手順・清掃方法を覚えましょう。 清掃をする際、お年寄りが気持ちよく、安全に作業するために何を注意する必要があるか考えてみましょう。</p>			
<p>準備するもの</p> <p>(居室)...掃除機、手ぼうき、台拭き、モップ、モップ洗いバケツ、バケツ) (洗面所)...スポンジ、洗剤、台拭き (トイレ)...トイレブラシ、洗剤、雑巾 (浴室)...スポンジ、洗剤、ブラシ</p> <p>(ゴミの収集、トイレトパ-パ-の補充)</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 4
清掃作業
 (居室・床・トイレ・洗面所)

課題別評価シート 4

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身支度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	訓練の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
技能水準	清掃用具の種類・名称を覚えられたか。	優	良	普通	要復習
	各清掃用具の扱い方法は適切に出来るか。	優	良	普通	要復習
	清掃する場所に応じた清掃手順を覚えることが出来たか。	優	良	普通	要復習
	清掃作業中、周囲への注意や配慮が意識されていたか。	優	良	普通	要復習
	清掃作業後の用具のメンテナンスは覚えられたか。	優	良	普通	要復習
	ゴミの処理や消耗品の補充などは覚えられたか。	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習
記録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	----------	----------	-----------	------------

備 考	
-----	--

基本技能作業 2

リネン作業

特別養護老人ホームなどにおける仕事では、リネン関係のものを扱う度合いはかなり多い。ベッドメイクでのシーツ・布団カバー・枕カバー・オムツ等やおしぼり、衣類、タオルなど様々な種類の布製品があり、生地の種類や大きさなどもそれぞれに異なる。

そこでそれぞれのたたみ方や整理の仕方などをやらせてみて、リネン製品ごとにどの程度対応できるか、また、指示をどの程度理解できているかを確認する。

おむつたたみやおしぼりの準備の中で、ある程度の数量をこなす作業を行わせて持久力・忍耐力の状態も見る必要がある。

特にベッドメイクに使用するシーツのたたみ方は、一般、その方法をなぜそうするのかも含めて実際ベッドメイクを行って見せながら理解させるようにする。

衛生面においても特に直接肌身にふれ、日々使用するものであり、扱いによっては、自身の健康にも影響を与える可能性も有る点を指導の中に盛り込みながら、理解させる。

シーツのたたみ方、ベッドメイクの方法は、施設によってやり方が異なることもある。シーツも必ずしも同じ形ではなくボックス型を使用しているところ、折り方も基本の三角コーナーを作って折り返すやり方ばかりではないなど、それぞれ施設の事情により若干異なるため、教科書どおりの方法を訓練段階で確定的に教え込むことはなるべく避けた方が良いと思われる。知的障害者の場合、ひとつのことを覚えるのにはかなり時間を要するが、それを修正するにもそれ以上に時間がかかる。特に技能面において、ひとつの方法に決めてしまっていて指導することは、指導者側からすればやり易いが、実習や就職に至った段階で、その施設のやり方に順応できない可能性がある。

もちろんいろいろなやり方を覚えさせることはさらに困難であるので一般の教科書にあるとおりの三角コーナーを作るやり方を指導しつつも、いろいろなやり方があって、**施設によってやり方が違うこともあるという認識**を植え付けておく必要がある。指導する上で、ベッドメイクに限らずこのことは注意する必要があるだろう。特に訓練初期の段階で限定した技法を覚えこませることは後の訓練に妨げを起す恐れが考えられる。就職を前提としてその施設に絞った段階になれば、その施設のやり方をしっかりと教え込むことが大切であるが、その見極めをよく考える。



様式1

訓練課題シート

導入訓練

5

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	K2 介護技能基礎2	課題名	リネン作業
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容</p> <p>リネンとはタオルやシーツなど、寝具、洗顔入浴に使用する繊維製品類の総称です。リネン類の清潔な取り扱い方法や使用する際に扱いやすいようなたたみ方など整理の方法を修得します。</p>			
<p>訓練目標</p> <p>使うときの状況を考えたたたみ方や整理の仕方をしっかりと覚えましょう。 同じものをたくさん行う作業での疲れず早く出来る方法を覚えます。 シーツや防水シーツ、ピロケースなどのたたみ方</p> <p style="text-align: center;">ベッドメイクのやり方とシーツなどのたたみ方の関連はどうですか？</p> <p style="text-align: center;">お年寄りがベッドにいる場合といない場合の方法の違いを覚える。</p> <p style="text-align: center;">たくさんの作業がある場合の効率的に出来ること。</p>			
<p>準備するもの</p> <p>マットレスパッド シーツ 防水シーツ 枕カバー(ピロケース)</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 5 リネン作業

課題別評価シート 5

年 月 日

確認項目	評価内容	指導員評価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身支度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	訓練の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
技能水準	リネン用品の種類・名称・用途を覚えられたか。	優	良	普通	要復習
	リネン用品の扱い方法は適切に出来るか。	優	良	普通	要復習
	種類別の整理方法を覚えることが出来たか。	優	良	普通	要復習
	リネン整理中での周囲への注意や配慮が意識されていたか。	優	良	普通	要復習
	共同作業において相手に合わせた行動がとれるか。	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習
記録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	----------	----------	-----------	------------

備考	
----	--

基本技能作業 3

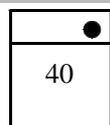
洗濯・乾燥

日々訓練で使用するタオルやおしぼり、シーツ等のリネン物品、モデルに使用する衣類などを教材として、洗濯から乾燥・たたみ、収納整理までの手順と、使用する機器の操作、洗剤の種類や使用法、繊維の質と洗い方などについてどの程度予備知識や経験があるかについて確認しながら指導していく。

乾燥機の操作、天日干しの場合の竿やハンガーの使い方、干す手順など、どの程度できているか、アイロンがけもどの程度経験しているかを観察する。

- * 洗濯機は操作自体はほとんど全自動のため水量や洗剤の量、生地と洗い方の選択、が自身で判断して出来るかどうか。
- * 経験の無い者には二槽式で水流の動きなどを見せて、全自動の作業手順を実感させながら説明していくと分かりやすい。
- * 洗剤の種類と分量、漂白剤やノリツケ剤、柔軟剤の役割など、使用した場合と使用しなかった場合の比較を体験させながら説明する。
- * 衣類の取り扱い絵表示記号を示し、その意味と洗濯方法の違いを認識させる。その過程の中で表示記号をトレースまたは描き移させ、どの程度正確に描けたかを見ることで、観察力や描写力などについての能力を測ることが出来る。

<例>



洗い液は 40 以下
洗濯機で洗うことが出来る



洗い液は 40 以下
手洗いはするが、洗濯機の場合は弱水流



綿・麻
アイロン温度は 180 ~ 200



アイロンがけには適さない



様式1

訓練課題シート

導入訓練

6

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	K2 介護技能基礎3	課題名	洗濯・乾燥
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容</p> <p>シーツ等リネン関係品の洗濯・乾燥の方法について、使用する機器の扱い方や洗濯するものの種類によって異なる方法を覚える。また、乾燥やアイロンがけ等の際に注意する点についても種類に応じた対応が出来るよう訓練します。</p> <p style="text-align: center;">洗濯機の使い方や洗濯する生地による配慮の方法 乾燥機の使い方とアイロンのかけ方。生地の種類とアイロンがけの方法。</p>			
<p>訓練目標</p> <p>生地の種類や汚れ方の違いにより洗濯方法を選ぶことが出来ること、汚れ物の選別が出来ること。 生地の種類の違いにより乾燥機の調節・操作が出来ること</p> <p>アイロンがけについては生地の種類により温度調節やかけ方について微調整が出来ること。 汚物の処理や衛生管理などについても自分で判断が出来ること</p>			
<p>準備するもの</p> <p>洗濯洗剤 洗濯かご 物干し台 アイロン アイロン台</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 6 洗濯・乾燥

課題別評価シート 6

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身 支 度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	訓練の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
技能水準	洗濯機・乾燥機・アイロンの操作を覚えられたか。	優	良	普通	要復習
	洗濯物の生地と洗濯方法・アイロンがけの選別が出来るか。	優	良	普通	要復習
	汚れの種類と洗濯方法の選別が適切に出来たか。	優	良	普通	要復習
	洗濯物の量と水や洗剤の量を適切に選択出来たか。	優	良	普通	要復習
	洗濯・乾燥作業中、周囲への注意や配慮が意識されていたか。	優	良	普通	要復習
	作業後の用具や洗剤等の片づけや補充に配慮が出来ているか。	優	良	普通	要復習
	汚物の処理方法や衛生管理について判断が出来ているか。	優	良	普通	要復習
	物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通
記 録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	----------	----------	-----------	------------

備 考	
-----	--

基本技能作業 4

簡易調理・食器洗い・配膳作業

レトルト食品のおかゆ等、簡単に出来る食品を用いて食事介助の体験をさせる。調理に関する道具の知識、技能、例えば包丁の扱い方など、これまでどの程度の経験があるかを観る。（最初は簡単なサラダなどを作らせることで、包丁さばきや台所仕事の経験度合いなどを測ることが出来る。）



* おかゆを食べさせる側と食べさせてもらう側と、交互に体験させ、食事介助についての段取りや注意・配慮点を説明しながら行う。（食パンをミルクに浸したミルク粥などは簡便に用意できるので導入の実習としては実施しやすい。）

* 水分の取り方、通常の食事と高齢者の食事の相違点など、嚥下の状態によって食事摂取の困難度が変わってくることを体験させる。

* 食器の取り扱い等を日常の習慣付けにするために、毎日の昼食も一緒に摂るようにし、その際順番に食事の準備と後片付けを担当させ、その様子を観察することで自主性や応用力、協調性、責任感などを把握することが出来る。



様式1

訓練課題シート

導入訓練

7

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	K2 介護技能基礎4	課題名	簡易調理・食器洗い・配膳作業 1
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容</p> <p>簡単な調理を実際行ったり、食器洗いなど施設における厨房作業を想定した作業体験をします。また食事介護をされる立場でベッドでの食事やテーブルにおける食事介護を受けてみて注意すべき点の理解を深めます。また、配膳に関して注意が必要な事項について考えていきます。</p>			
<p>訓練目標</p> <p>調理器具の名称や扱い方を覚えましょう。</p> <p>調理器具を使って簡単な調理が出来るようにします。</p> <p>厨房用品・食器の扱い方・洗い方・整理の仕方を覚えましょう。</p> <p>配膳に必要な用具・物品の準備が出来るようにしましょう。</p> <p>調理の準備から配膳までの流れをスムーズに出来るようにします。</p>			
<p>準備するもの</p> <p>電子レンジ オーブントースター レトルト食品・パン・牛乳など 各種食器・箸・フォーク・スプーンなど(メニューに応じてそろえる) ラップ・アルミホイルなど</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 7

調理・食器洗い配膳作業

課題別評価シート 7

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身 支 度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	訓練の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
技能水準	調理器具の種類・名称・用途を覚えられたか。	優	良	普通	要復習
	調理器具の取扱方法が適切に出来るか。	優	良	普通	要復習
	食器洗いが適切に出来たか。洗剤の使い方は適切か。	優	良	普通	要復習
	配膳に必要な用具・物品の準備は適切に行ったか。	優	良	普通	要復習
	調理中、周囲への注意や配慮が意識されていたか。(包丁・火気 湯沸かし・電気等)	優	良	普通	要復習
	調理器具の片づけや収納は適切に出来ているか。	優	良	普通	要復習
	食品の保存や賞味期限について意識はされているか。	優	良	普通	要復習
	調理器具・食材・食品の衛生管理について配慮が出来ているか。	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習
記 録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	----------	----------	-----------	------------

備 考	
-----	--

保健衛生

清潔な作業と整理・身だしなみ

介護を行う上で、衛生観念の必要性は不可欠な要素である。高齢者の場合、身体の抵抗力が低下しているためちょっとした風邪や、健康体では特に問題にならない菌や病気に対しても死亡に繋がるような事態になってしまうこともある。

また、訓練生自身にも実習中、就職後を含めて様々な病気、感染症にかかる危険も持ち合わせている仕事であるので、特に強く衛生・清潔に対する意識を植え付けておく必要がある。ましてや多くの人と接する仕事でもあり、自分の身だしなみについても見た目にも清潔感のある状態でなくてはならない。

こうした点から日常の言動の中で、意識しないでも自身の身だしなみがきちんと出来るように指導しておくことが大切である。

* 訓練生各自の朝の整容の仕方をそれぞれチェックし、不足しているところがあれば修正する。洗顔・歯磨き・服装や所持品のチェックするところから始め、徐々に細部にわたる衛生面の配慮を出来るように指導していく。



<正しい手洗いの指導>

* 手洗いの方法をそれぞれチェックした上で、正しい手洗いの方法を指導する。手にインクなどの色素をすり込ませ、普段各自が行っているように手を洗わせる。(写真は光明丹)



洗い終わった時点で色素の残留度を確認させ、通常の方法では残ってしまう汚れの部分を認識させる。

* (目に見えない細菌や汚れについて、口頭で説明してもなかなか理解し難い。どの部分に洗い残しがあるかを、視覚的に明確に示し、確認させた上で正しい手洗いの方法を指導する。)



汚れが残った状態
(指の股に残りやすい)



正しく洗った後



様式1

訓練課題シート

導入訓練

8

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	保健衛生	課題名	清潔な作業と整理・身だしなみ
時間数(時限)			
担当指導員		講師名	
<p>訓練内容</p> <p>介護の仕事上必要な衛生面に関する配慮や心構え、注意事項、自分自身の身だしなみへの配慮や意識について考えます。また、自分自身の心と身体の健康を保つためのストレス解消法についても考えてみましょう。</p>			
<p>訓練目標</p> <p>良い身だしなみとそうでない事の判断が出来ますか？ 介護の仕事にふさわしい服装や所持品はどうでしょうか？ お年寄り・自分自身の健康維持や病気を予防する方法について考えて発表しましょう。 正しい手洗いやうがいの方法を覚えましょう。 介護の仕事上気をつけなければならない衛生上の配慮事項を覚えましょう。</p>			
<p>準備するもの</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 8

課題別評価シート 8

保健衛生 清潔な作業と整理・身だしなみ

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身 支 度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
	衣服やハンカチ、靴などは清潔なものを身に着けているか。	優	良	普通	要復習
	頭髪や爪は適度に保たれているか	優	良	普通	要復習
	洗顔や歯磨き、入浴など自分自身の身体の清潔は出来ているか	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	訓練の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
技能水準	健康維持の為の対応について理解できたか。	優	良	普通	要復習
	代表的な疾病やその対応法が理解できたか。	優	良	普通	要復習
	手洗いやうがいの習慣づけの意味が理解できていたか	優	良	普通	要復習
	正しい手洗い・歯磨きの方法が修得できているか。	優	良	普通	要復習
	介護上注意すべき衛生上の配慮点をいくつかあげることが出来るか	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習
記 録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか。	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	----------	----------	-----------	------------

備 考

安全衛生

安全作業と介護

日常生活や仕事をする上で、どのような危険な状態があるかを、身近な環境から探し出させ、安全に対する意識をもたせる。

一般的な安全に対する意識の向上を、介護の立場での安全に結びつけていく。

* 製造現場における**危険予知訓練（KYT）**の教材などを使っての指導も良いが、もっと身近な家庭や実習室、訓練施設内を教材として、自分たちにとってどんな危険が存在するかを考えさせる。また、視点を变えて、高齢者になってみて危険な状態はあるかといった問いかけから、**バリアフリー**とは何かに結び付けていく。

* 訓練内容としては、座学での学習をした上で、実際の現場、施設内を見て回りながら意見を出させる。出来ればその場その場で危険の可能性、対策なども話し合いながら進めていくと良い。その際、**高齢者体験実習**とも絡めて行うと効果的である。

* 高齢者を介護するにあたってどのような危険なことがあるかをじっくりと訓練する必要がある。また、それに伴って安全な介護を行うにはどのような配慮をしなければならぬかを具体的に示していく。現段階では必ずしもすべて覚えさせようとする必要は無いので、**どれくらい判断できるか、危険を拾い出せるか、対策が出来るか、どの程度想像力があるかなど、訓練生自身の能力を測る手段として実習する。**

* 介護の場合、そうした事故に関してばかりでなく、いかに介護者自身の健康を保つか、施設内での**感染防止**や職業病とも言える**腰痛の防止**、**精神的なストレスの解消法**など、仕事を続けていく上で必要な要素について考えるきっかけをこの段階でつけていく。



* 車椅子による移動介助に併せて施設内外を観て回りながら危険予知を行う。



* 訓練の始まりの準備体操・ストレッチングの習慣付けと腰痛予防体操の習得

様式1	訓練課題シート			
	導入訓練			
	9			介護サービス
実施期間	平成 年 月 日()から			
	平成 年 月 日()まで			氏名
項目種別	安全衛生	課題名	安全作業と介護 1	
	時間数(時限)			
担当指導員		講師名		
<p>訓練内容</p> <p>作業を円滑に行うための準備や整理の方法を考えます。 一般的な仕事における安全に対する意識を持つことに加えて、介護の仕事において必要なお年寄りに対する配慮、又、自分自身の健康管理も含めた生命を扱う職業としての自覚を持ちましょう。</p>				
<p>訓練目標</p> <p>安全な作業とはどんな事かを話し合ひましょう。</p> <p>どんな行為が危険かを判断しましょう。また、その対策も考えます。</p> <p>お年寄りにとっての危険な事、また安全に介護するために必要な配慮とはどんな点がありますか？</p> <p>自分自身の健康を保つ方法としてどんなことが考えられますか？ また、感染症の予防についても理解を深め、予防法を学びます。</p> <p>腰痛防止の為の無理のない介護技能やボディメカニクスに沿った動作を学びましょう。</p>				
<p>準備するもの</p> <p>ビデオデッキ・テープ 体操器具(ダンベル等)</p>				
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>				
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>				

導入訓練 9 安全作業と介護

課題別評価シート 9

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身 支 度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	訓練の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
技能水準	安全な行為と危険な行為について自分の考えを発表できたか。	優	良	普通	要復習
	老人にとって危険な事項をいくつか上げることが出来たか。	優	良	普通	要復習
	配慮する点について考えを発表できたか。	優	良	普通	要復習
	自分自身の心身の健康に対する意識や配慮はあるか。	優	良	普通	要復習
	ボディメカニクスと介護時の動作の関連について理解が出来たか。	優	良	普通	要復習
	主な感染症や病気の種類と原因。対策について理解が出来たか	優	良	普通	要復習
	お年寄りと自分自身の体調の変化の観察や判断は出来るか。	優	良	普通	要復習
	病気や体調の変化があった場合の対応が出来るか。	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習
記 録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか。	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	---	---	----	-----

備 考

体育指導

技能習得向上に繋げる為の補完体操

ほとんどの知的障害者施設、学校等で、体力増進のために何らかの体操・運動の時間を設けて行っているが、知的障害者の体力不足は、もともと障害そのものが原因しているのか、障害があるゆえのトレーニング不足からくるものなのか判断に苦しむところではある。

今回の試行訓練を始めるにあたって、訓練生それぞれの様子を観察したところそれぞれの体力・運動能力にかなりのレベル差があること、またそれぞれの能力が非常に顕著な特徴を持っていたため、体育指導の必要性を感じた。

当センターでは、他の障害の入所生は障害別に体育の時間が週2時限ほど設定されており、知的障害者もその中に加わって、メニューに従った運動を行っているがそれだけでは十分ではないと考えて別の目的を持った補完体操の時間を設定した。

<補完体操の内容>

介護の仕事内容を考えると、施設でも朝のラジオ体操は行っているし、レクリエーションの中にもいろいろ工夫した体操を取り入れて行っており、一般的なラジオ体操などは覚えておくことが必要である。加えて、本来の目的として、介護の仕事は1日中身体を動かし、体力も必要な仕事であるから、朝一番に身体を動かして慣らしておく必要がある。その意味での準備運動として、「ラジオ体操第一・第二」や、NHKで放送している「みんなの体操」などを取り入れて行う。

柔軟体操として、また医療・介護福祉の現場における職業病とも言われている腰痛の予防を目的にストレッチングを毎朝十分な時間を取って実施してきた。

さらに重要なポイントとして、自分の身体のコントロールがどの程度出来るか、指導者の動きあるいはビデオ等を見て、その動きをどれくらい正確にトレースできるかで、技能の修得度合いにかなり顕著な差が出てくるものと思われる。

そうしたことの能力を判断しつつ、1年間の訓練でどの程度向上させられるか、またどの程度効果があるかを知ることが、指導する上で非常に役立つものと思われる。

昔から手作業を続けている人は痴呆になりにくいとか、指先・手先を動かすことで脳の働きが活性化するといわれており、身体を動かすことばかりでなく手・指の運動が技能の修得に重要な影響を与えるのではないかと考え、ラジオ体操やテレビ体操など、一般的な準備体操の他に、指先や手首の柔軟運動を加えて脳機能の活性化を図る事を目的に、さまざまな運動を工夫しながら取り入れて試している。また、障害者体育の専門指導員に定期的に講義をお願いして、1年を通して各個人の体力や運動機能のデータを記録し、その推移を追うとともに、それぞれの持つ能力分析を行い訓練に生かす取り組みを行っている。

(訓練生の中に非常に指先の動きの悪い、身体コントロールにも問題の多い者がおり、あらゆる訓練課題に影響を及ぼしていたため、それをいかに解消させるかという点でもこの訓練内容は必要不可欠のものとなった。)

知的障害者の中には、運動能力や機能のアンバランスにより、力の加減や体勢の維持が困難と見受けられるものもあり、この点は介護の技能習得において大きな障害となってくると考えられる。具体例は後述で紹介するが、この訓練全体を通して見たときに単に体力増強の意味だけでなく、広範囲にわたって重要な役割を持つ訓練として位置付け、十分な時間と正しい運動指導（適当なやり方では却ってマイナスになる場合もある。）が訓練効果に大きな影響を与えるものと信じる。



体力測定（心肺機能測定）

* 平常時における脈拍数をそれぞれ計らせ、記録する。

15秒間に何回かを計らせる。（脈の取り方自体が分からないとか、脈そのものが何なのか理解できていない場合もあり、それについては講習中の医学の基礎知識において理解させる。

この時点では、運動終了後なるべく早く脈拍を測定する必要があるため、確実に脈を計れるように指導しておく。手首とか、頸部など、本人が一番計りやすい部分を探し出させる。）

もし計測に失敗するとまた一定時間を置いてやり直しになるため、計測に不安のあるものについては指導者がサポートするなどの配慮が必要となる。

* 男性と女性では負荷のかけ方が異なる。

通常の歩く速度よりやや速い速度で、一定のペースを保ちながら歩く。（女性 1分間に90m・男性は100m程度を目処）途中話をしたりよそ見をしたりせず、歩くことに集中する。

* 4～5分歩き、その場で15秒後に脈拍を計測させる。

それぞれの申告数を記録し、年齢別の平均値と比較してみる。

心臓病や高血圧等の場合は、あまり激しい内容は避けるなど、自身の体力の状態を自覚させることが目的である。

今後の訓練の目安をつけるために、指導員としてもデータとして知っておくことが大切であろう。

脈拍に特に問題が無ければ、毎日の通所時に計る練習をさせてみるなど、脈の計り方の訓練、医学的な理解を促す布石としても効果があると考えられる。

進藤宗洋 監修「セルフケアハンドブック（運動と食事）」体力テストの方法より



バランス感覚測定

- * 身体能力の要素として重要なバランス感覚を測定し、訓練の進捗状況によって、どの程度の発達を見せるかを観る。特に片足立ちは、バランスを保つためには足裏で微妙な身体コントロールを必要とするために、そのコントロール感覚を覚えさせる運動として良い。出来れば靴を脱いで足裏が直に床に触れる状態で行う方が効果的である。



- * バランス測定器（スズケン社製）を用いて、「気をつけ」立位の静止姿勢でのバランス状態を開眼と閉眼で、各 60 秒間測定し、重心の移動軌跡グラフを記録する。

定期的に取り、訓練による発達状況を検証する。（検証結果は別項目で記述する）



指先の巧緻性測定



- * 押し込み式カウンターを使用し、親指・人指し指・中指・薬指で順番に1指のみで10秒間、出来るだけ早く連続して押し込み、数を測定する。それを左右交代で行い記録を取る。

一月に一回程度記録を取っていき、その発達具合を検証する。指先運動や他の訓練の成果・影響があるかどうかの実証的データとして役立つ。

- * カウンターの持ち方は、自由に持ってよい。それぞれが一番やり易い持ち方で実施させる。何度か練習させ、自分に合った持ち方を選ばせる。



朝の準備体操

NHK 教育テレビ
「みんなの体操」



ストレッチング
腰痛予防体操



様式1

訓練課題シート

導入訓練

10

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	体育	課題名	補完体操・体力向上のための運動
時間数(時限)			
担当指導員	講師名		
<p>訓練内容</p> <p>毎週の定例の体育ではチームワークや協調性を主体とした種目を行います。さらに一日身体を動かすための準備体操とストレッチングを、毎朝行います。また腰痛予防など、介護上起こりうる身体的な負担を軽減するため、基礎体力をつける意味からそれぞれの体力に応じた補完体操を個々のプログラムに従って行います。</p>			
<p>訓練目標</p> <p>自分の現在の体力を知り、プログラムメニューを良く理解し、目標を立てながら体力の向上をはかりましょう。</p> <p>介護の仕事で起こるとされる身体的・精神的な障害について理解を深め、効果的な疲労やストレスの解消法を学びましょう。</p> <p>余裕が出来たら、他の人の動きを観察して、正しく出来ているかどうか判断し、指導できるようにしましょう。</p> <p>デイサービスセンターなどで行われているリズム体操などの指導が出来るように、いくつかの種類を覚えましょう。</p>			
<p>準備するもの</p> <p>ビデオデッキ・テープ 体操器具(ダンベル等)</p>			
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>			

導入訓練 10

体 育

課題別評価シート 10

補完体操・体力向上のための運動

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身 支 度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	訓練の感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
技能水準	現状の自身の体力について正しく理解が出来ているか。	優	良	普通	要復習
	疲労やストレスの解消法を持っているか。	優	良	普通	要復習
	体操などは指示通りきちんと行っているか。	優	良	普通	要復習
	周囲の人への配慮や観察が出来ているか。	優	良	普通	要復習
	体操などの覚えは良いか。	優	良	普通	要復習
	他者へ指導することは出来るか。	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習
記 録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか。	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	----------	----------	-----------	------------

備 考	
-----	--

社会生活指導

この項では社会生活指導について単独の内容として掲げてはいるが、実際の訓練においては訓練課題や実習を行う場面で実施している場合が多い。

一つ一つ取り上げてもなかなか分別しにくい内容ではあるが、基本的な考え方としての指導内容を挙げておく。また、導入段階としては、聞き取りや観察により、問題点の抽出、データ収集が主にあって、実質的な指導は本訓練に入ってからとする。

< 面談形式による職業認識及び就労意欲の確認 >

個別に時間を設定し、入所に至るまでの経緯、生活習慣、日常行動の状況、介護を希望した動機、意欲などについて質問項目と照らし合わせながら引き出していく。質問項目に関しては以下のとおりである。

社会生活	職業認識・就労意欲
入所してから今までに受けた注意について考えてみましょう。	どうして働きたいのですか？
1．言葉遣い・挨拶・返事。	1．自分で使えるお金が欲しいから。
2．時間を守ること。	2．家族を喜ばせたいから。
3．身だしなみについて(清潔な服装・手洗い)。	3．自分の好きなもの(食べ物・衣服・CD など)が欲しいから。
4．訓練中の私語(むだ話・訓練と関係ない話)。	4．旅行がしたいから。
5．訓練中のよそ見について。	5．みんなが働いているから。
6．責任感(当番・役割・自分の苦手なこと きれいなことを他人に押し付ける)。	6．自分はもう大人だから。
7．丁寧さ。	7．働かないと恥かしいから。
8．準備・後片付け。	8．家族や先生が「働きなさい」と言う
9．注意を受けた後の態度(不満そうな表情・言い訳)	9．働くことが楽しいから。
10．周囲の人と協調した行動がとれるか。 (自己中心的・言葉遣い・ペースを合わせられない)	10．貯金をしたいから。
11．その他のこと	11．将来、一人で暮らしたいから(暮らさないといけないから)
12．今後の目標(目標に向かって何を、どうするかを 具体的に)	12．社会の役に立ちたいから。
	13．えらくなりたいから。
	14．他人に自分を認めてもらいたいから
	15．遊ぶためにはお金が必要だから。
	16．規則正しい生活をしたいから。
	17．身体の健康のため。
	18．友達をつくりたいから。
	19．両親や職員(先生)に誉めてもらいた いから。
	20．生活していくため。

<生活基盤の底上げ>

本試行における3名の訓練生は皆軽度な障害で普通校出身者である。

一般的に観れば比較的コミュニケーションも取れるし、通勤等の日常行動に関しても大きな問題がないように観られがちであるが、訓練を進めるにつれて軽度であるが故に社会適合できないできた様々な問題点が見えてきた。

特に生育過程において、労力や時間がかかりすぎるために細部にわたる教育が見過ごされて育ってきた、あるいは障害者自身が理解できていなくても「分かった」という反応をすることで自己防衛をしてきたのではないかと思われる。

本来誰もが当然知っているであろうと思うようなことを、言葉としては知っていても、その意味や内容について質問してみるとまったくわかっていないと言うことがしばしば見受けられ、そのために知識や経験の幅が極度に狭められてきているのではないかと考えられる。

さらに介護における訓練では、あらゆる生活上の行動が教材となり影響を及ぼすが、日常の行動習慣そのものが確立されておらず、支障をきたす場面が多々あった。他人のお世話をする上では、まず自分自身の身の回りのことがきちんと出来ていることが前提にあり、その次にどのようにすればよい介護が出来るかという話になってくる。

そこで介護の技能の指導をする前に、どの程度自身の生活基盤が出来ているかを確認し、そうした生活の基盤や基礎知識の不足を補うことが優先された。そこで日常生活面の状況の中から本人のADL(日常生活動作)がどの程度出来ているのかを確認し、その底上げを図っていく作業をこの社会生活指導のカリキュラムを付加することで行っていく。

朝 礼

老人施設においては職員は元気な笑顔と挨拶が基本であり、ほとんどの施設で夜勤との引継ぎと1日の予定、利用者の状況などを連絡するために朝礼を行っている。

本訓練においても労働習慣と介護者の基本的態度の確立のため、まずははっきりとした挨拶、礼儀正しい態度を身に付けさせるために、社会生活指導・職業生活指導の一環として毎朝朝礼を行っている。

その中で報告・連絡記録の方法、コミュニケーション能力の向上のための訓練として指導員、訓練生が交互にショートスピーチを毎朝行っている。(本訓練においても継続実施)

ショートスピーチ(話題提供・知識・経験の幅を広げる為に)

3名の訓練生は知的には軽度で、障害に応じた特別教育を受けてきていない者達であった。訓練を進めるにあたって、興味の幅や生活経験、一般常識等が極度に不足しており、言葉の単語としては知っていてもその内容に関してはほとんど理解していないことが多々目に付いた。特にF君については、実際目にしていても興味も関心も無いため、記憶にまったく留めていないことがあまりに多く、そのことが原因で技能及び知識の習得を阻害していることに気づいた。

そこで、まずは言葉の意味の理解や日常のあらゆる事への興味・関心を持たせることが先決と考え、毎朝、交代でショートスピーチを担当させ、新聞やテレビの話題、通所途中

の様子、趣味のことなど、短時間にまとめて話すことを続けさせた。

ショートスピーチの後、その話の内容や態度の中からそれぞれのコミュニケーション能力を測り、理解力の限界点を探り出し、話題を補足したり解説をし、それを介護にどのように役立つかと言う結び付けを誘導しながら続けてみた。その結果、新たな指導方法の工夫の糸口をつかむと言う点で非常に役立ったし、訓練生にとっても人前で話すよい練習が出来たと思う。

さらにこの訓練は、**お年寄りとのコミュニケーションを図るために必要な知識や経験を補完する上でも非常に重要な位置を占めているといえる。**(本訓練においても継続実施)

<朝のショートスピーチ>



<指導例 1> 介護をする上でその日の天候、気温や湿度の状態が影響することがあるために、気温と湿度を計らせようとしたところ、計器の読み方から、湿度そのものも理解しておらず、その日の湿度をどう体感しているかの質問に逆の答えを言う。それが3名ほとんど同じレベルであったことから、湿度そのものの概念が理解されていないことに気づいた。

空気の中に水滴があるということが視覚的に理解出来ない為と思われるので、計器の前で霧吹きを噴いてメーターの上がり具合を見せたり、肌に吹きかけて湿気の間を体感させてイメージ化を図った。

<指導例 2> 気温・天候の他、季節感についての話題の中で、花木の名前についても質問したところ、一般になじみの深い植物の名前すらわからない様子であった。駅からの通所途中にも、季節ごとに色とりどりの草花、樹木があり、関心を持たれば話題の中に少しは出てきそうなものであるが、F君の場合はひたすら歩いてくるのみで、周りの景色の記憶は皆無に近い。Hさんの場合は映像的には記憶されているが、言葉としての知識や表現が苦手で、なかなか話せない。Sさんの場合は比較的知識も記憶もあり、少しヒントを言われれば思い出して話し始めることは出来る。

三者三様ではあるが、お年寄りとの会話において季節感や天気、外の様子など、また草花の名前などは少しでも覚えておく必要がある。また、そうした観察眼を持つことは介護の仕事にとって必要な要素であるため、少しでも身につくように指導する必要がある。

そこで、花や樹木の名前を覚えさせるために、図鑑や写真を使ってスピーチの中に織り込むことを手始めに、情緒性・心理的見地からの育成もかねて、園芸療法的な植物栽培、塗り絵で花を描かせるなど、

これまであまり体験したことのない分野への広がりを課題に盛り込んで、知識・経験の幅を広げるようにした。

<家庭との連携>

先にあげた ADL の確立及び訓練効果をさらに高める意味で、訓練生の家族との連携を重視している。

毎日の連絡帳を通じて、訓練したことを家庭の中で出来ることに関しては復習させてその結果をまた訓練に反映させる。特に掃除・洗濯・食器洗いなど、日常的な動作を習慣化させる上で家族の協力を仰ぐことで、訓練の状況や趣旨・目的を家族にも理解していただくこと、介護技能に関しても生身の人間で行う必要があるが、指導員やモデル人形では出来ないことを家族にお願いするなど、指導員と家族の連携を深めることで一層の訓練効果上げることが出来ると考える。

また、訓練現場とは違う家庭での言動や家族の反応等をタイムリーに知ることが出来るために、指導上非常に役に立っている。

連 絡 帳

平成 年 月 日 ()

作業内容		感想・反省
[AM] 9:00 10:30 10:40 12:20 [PM] 13:20 15:00 15:10 16:00	昼休み	
センターから		
家庭から		

<文章力・伝達表現力の向上>

記録や報告・連絡等に必要な、内容を的確にまとめる能力をつけるため、及び国語力の向上を図るために、**訓練日誌、各課題ごとのワークシートのまとめ、連絡帳等**、毎日相当量時間を取って記録をさせている。

1日の訓練終了時に、反省とまとめをする意味で毎日30分から1時間強の時間を割いて、まとめの時間を取っている。

特別に国語の勉強の為の時間を設けるのではなく、こうした時間に漢字や文章力を養う内容も併せて行う。従ってその都度分からない漢字の書き方・読み方文章の間違いなどは質問させながら修正していく。

そのために課題ワークシートやその他の文章においても**意図的にルビを振ることをせず**に渡している。



* 最初のうちはかなり時間もかかった上に内容もほんの少しで、訓練した事実だけ書かれているような状態だったが修了が近づくころには文章の量も格段に増えてきて、内容もポイントをつかんで反省をしている内容になってきた。

文章についてはあくまでも本人の考えで、本人の言葉で書かせるようにすること。そのためにはあまりあせらせないで、時間がかかっても慌てさせないように注意して指導することが大切である。

* 1日の訓練内容を書かせるときに、なるべく時間の流れに沿って記述できるような配慮が必要である。

時間の経過や訓練内容の前後のつながりや組み立てという事にも意識が出来るようにするためには、時系列様式で記述できるように日誌の形態も考える必要がある。



介護サービス訓練日誌

平成 年 月

部長	課長

氏名: _____

日	曜日	時限	天候() 気温() 湿度(%)	担当者名	印
			訓練内容・実習名		指導員
	月	1・2			
		3・4			
		5・6			
		7・8			
日	曜日	時限	天候() 気温() 湿度(%)	担当者名	印
			訓練内容・実習名		指導員
	火	1・2			
		3・4			
		5・6			
		7・8			
日	曜日	時限	天候() 気温() 湿度(%)	担当者名	印
			訓練内容・実習名		指導員
	水	1・2			
		3・4			
		5・6			
		7・8			
日	曜日	時限	天候() 気温() 湿度(%)	担当者名	印
			訓練内容・実習名		指導員
	木	1・2			
		3・4			
		5・6			
		7・8			
日	曜日	時限	天候() 気温() 湿度(%)	担当者名	印
			訓練内容・実習名		指導員
	金	1・2			
		3・4			
		5・6			
		7・8			
記事					

様式1

訓練課題シート

導入訓練

11

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名

項目種別	課題名	社会生活指導訓練
時間数(時限)		
担当指導員	講師名	
<p>訓練内容</p> <p>朝礼やホームルームの時間、訓練時間を通じて、挨拶や言葉遣い、報告や連絡、記録など、働く上で必要な基本的な社会性やマナー・労働習慣等、身に着いているものとそうでないものを自覚し、足りないものを向上出来る用に訓練します。</p>		
<p>訓練目標</p> <p>毎日の朝夕の挨拶や来訪者への挨拶を、元気良く明るくしましょう。</p> <p>始業時間や休憩時間など、決められたスケジュールを守ること。また、時間前の準備・後片付けなどがきちんと出来るようにします。</p> <p>毎日健康に良いコンディションで働くために、日頃の生活態度を振り返り改善すべき点があるかどうかを検証しましょう。</p> <p>職場における基本的なルール(マナー)を身に着けましょう。</p> <p>日頃の訓練から、介護に携わるものとしてふさわしい身だしなみを心懸けましょう。</p>		
準備するもの		
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>		
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>		

コミュニケーション能力

<介護におけるコミュニケーションの必要性の理解>

介護の仕事は、人といかにスムーズにコミュニケーションを取れるかが、まさに必要とされるところである。ましてや、知的障害者がこの世界に入って求められるところも、この点にあるように思われる。

もちろん日常生活の場面においても訓練中、職場における同僚とのコミュニケーションに関する基本能力を求められることから、特に力をいれて指導しておく必要がある。

前項で述べた社会生活指導における朝礼・ショートスピーチ・記録・連絡・報告に関する内容はじめ、訓練課題ごとにもこの内容が加味されてくる。

そこで、この項では、記録・連絡・報告に関する能力についての見極めと指導。老人介護施設におけるレクリエーション活動を通じて様々な場面における適応力、お年寄りとの会話力、言葉遣い、チームワークにおける動き方などを観察することにより、ある程度大まかな適性をつかむことが出来る。

< 模擬レクリエーション >

デイサービスセンターでのレクリエーションを想定して、職員をお年寄りに見立てて、その企画から準備、実施までのプロセスを体験させる。



受け付け・案内



表彰式セレモニー



ペットボトルボーリング



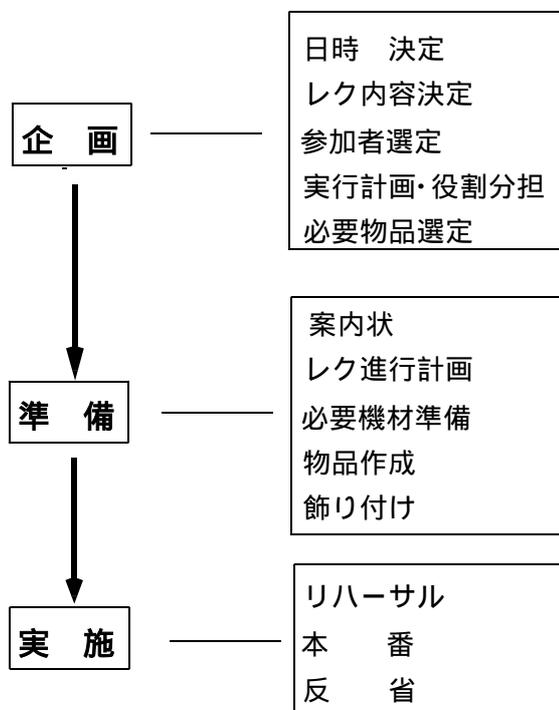
< 模擬レクリエーションの目的と内容 >

施設見学で体験したデイサービスの状況を想定させながら、導入訓練で身につけたものを総合的に発揮させる場としてこの模擬レクリエーションを実施する。

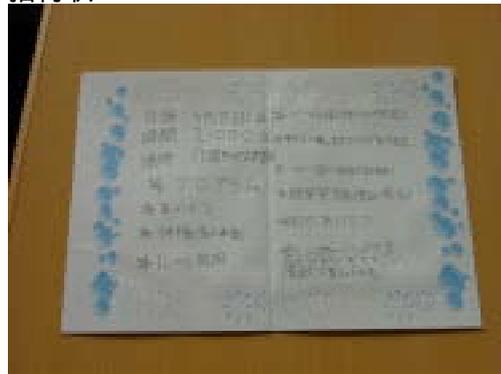
導入・前期・後期修了前の3段階に分けて区切り、段階ごとのまとめの意味を込めて、訓練の成果を見る。

計画から実行までのプロセスを訓練生自身に責任を持たせ、それぞれの得意な役割を配分しながらそれぞれの動き方を観察し能力を測る。併せて、他部署の職員との交流を計る中から様々な人との対応の仕方、言葉遣い等の社会性を身につけさせる為にも良い訓練となる。準備段階でのゲームに必要な器物の製作作業においては、手先の器用さ、作業手順の組み立てが出来るかどうか、他者との協調性・配慮等が出来るかどうかといった能力を観察し、育成する課題としても効果が期待できる。

・・・レク実施プロセス・・・



訓練生作成 レク招待状



様式1

訓練課題シート

導入訓練

12

介護サービス

実施期間 平成 年 月 日()から
平成 年 月 日()まで

氏名 _____

項目種別	課題名	コミュニケーション能力
時間数(時限)		
担当指導員	講師名	
<p>訓練内容</p> <p>お年寄りや施設の職員と円滑な関係を築いていくために必要な、言葉遣いや態度を学びます。</p> <p>仕事上必要な連絡や記録の作成方法・簡潔なまとめ方について学びます。</p> <p>レクリエーションの種類を覚え、進行や準備、企画の立て方を学びます。</p>		
<p>訓練目標</p> <p>連絡や報告など、日常の業務に必要な記録の作成やまとめ方や、お年寄りの日々の状態の変化をどれくらい見ることが出来るかといった観察力を身に着けましょう。</p> <p>朝礼や終礼また訓練上において、自分の考えを相手に伝えることや相手の話を良く聞きいて理解することができるようにしましょう。</p> <p>訓練あるいは実習等、その場に適した言葉遣いが出来るようにしましょう。お辞儀や作業姿勢、態度や視線等、気をつけなければならない点を意識して実行しましょう。</p> <p>レクリエーションを行う趣旨とやり方について2～3パターンを覚えます。そして、企画から準備、進行、片付けまで自分で出来るようにしましょう。</p>		
<p>準備するもの</p>		
<p>訓練後の感想</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>		
<p>指導員の感想・評価</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>		

導入訓練 12 コミュニケーション能力

課題別評価シート 12

年 月 日

確認項目	評 価 内 容	指 導 員 評 価			
規則・約束	訓練時間に遅れないで来たか。	優	良	普通	要復習
身 支 度	訓練にふさわしい服装や持ち物の準備はできていたか。	優	良	普通	要復習
訓練態度	訓練中は集中して学ぶことができたか。	優	良	普通	要復習
	訓練中受けた指示を素直に実行したか。	優	良	普通	要復習
挨拶	挨拶が元気良く明るくできていたか。	優	良	普通	要復習
言葉遣い	職員・見学者等に対する言葉遣いはきちんとできていたか。	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への声かけは良くできていたか	優	良	普通	要復習
	利用者(模擬)への言葉使いは配慮できていたか	優	良	普通	要復習
理解度	指導員の説明についてよく理解できていたか。	優	良	普通	要復習
	指導員の説明は理解しやすい内容であったか	優	良	普通	要検討
コミュニケーション	利用者(模擬)との会話や声掛けはできていたか。	優	良	普通	要復習
	会話する人の立場や背景を理解した話ができるか。	優	良	普通	要復習
	感想や自分の考えを相手に伝えることが出来ているか。	優	良	普通	要復習
	話しをする相手に応じた言葉遣いや態度・行動が出来るか。	優	良	普通	要復習
	記録は簡潔にまとめて記載することが出来るか。	優	良	普通	要復習
	周囲の人への配慮や観察が出来ているか。	優	良	普通	要復習
	レクリエーションの企画・準備・進行を主体的に行うことが出来るか。	優	良	普通	要復習
	レクリエーションの指導をすることは出来るか。	優	良	普通	要復習
物品整理	使用した備品や用具の準備や整理はきちんとできるか	優	良	普通	要復習
記 録	課題について学んだことや自分で考えたことを簡潔に記述できたか。	優	良	普通	要復習

総合評価	この訓練全体を通しての行動は適切に行っていたか。	優	良	普通	要復習
-------------	---------------------------------	---	---	----	-----

備 考	
-----	--